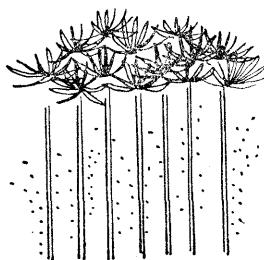


# 愛からのお自由



佐藤文子



ブルックスとワーグナーによる絵本『まつくりけのまよな  
かネコよおはいり』は、私の大好きな絵本の一冊です。しば

らく前になりますが、私は大学一年生の講義で、学生にこの  
絵本を紹介しました。ところが学生はどうもあまりこの絵本  
が気に入らない様子です。一人の学生は、ローズおばあさん  
がけしからんというのです。犬のジョン・ブラウンに、「わ

たしたちもうほかになんにもいらないね」と愛を誓いな

がら、猫に気を移し、あげくのはて仮病まで使って寝てしま  
うのはけしからんというわけです。思いがけない学生の反応  
に私の方が、なるほどそういう方もあるのかと考えさせら  
れましたが、かなりの学生がこれに近い気持をもっていたよ  
うです。それでその後、他の学年の学生にもきいてみます

— 4 —

ぼくもジョン・ブラウンのような気持になつたよ」といいました。

投影法と呼ばれる心理テストがあります。あいまいな絵や刺激図を見せられると、人はそこに自分の内的世界を投映して、あいまいな刺激を解釈するというのです。人ひとが絵本さえも、これほど自分の気持を投映して見るのかと、私は驚きました。

私は絵本については全く素人なのですが、この絵本は人間の嫉妬心を実に巧みに描きながら、愛のあり様を私たちに示唆しているすばらしい絵本だと思ったのです。勿論この絵本のすばらしさはブルックスの絵によるところも大きいようですが……

自分が愛している人の心が自分以外のものに動いていくのを知り、その愛の対象に嫉妬心と憎しみを感じながら、一方で自分が愛してきた、そして今も愛しているローズおばあさんを許すべきなのか、それとも新たな愛の対象の猫とことん競い合うべきか……ジョン・ブラウンの葛藤は私の葛藤のようになります。

一方、ジョン・ブラウンに愛を誓い、そして今も彼を愛していくながら、なおもまづくろけのまよなかネコに心が動いて

いくのをどうしようもないローズおばあさんの気持も、また他人事ではなく思えます。ですから、ジョン・ブラウンが悩みいた末、愛するおばあさんの幸せのために、猫を入れてやった時、私はほっとするのです。勿論この後三人の関係はどうなるのか全く予測できないまま、ドラマはまさに未完で終るのですが……

最近、私が大学時代から敬愛してきた恩師が亡くなりました。この先生は生涯、我執の愛からの自由を説いてこられ、自らもまた実践してこられました。

私は、我執の愛から自由になる第一歩は、自分の心にある我執の愛に気づくことだと考えます。猫に心が動いたり、猫に嫉妬したり、そんなどうしようもない心の動きを自分のものとして受け入れる時、お互いに許し合うことができ、そこにはじめて自由な愛の関係が成立するのではないでしょうか。

もし私たちが我執の愛から自由になれない時、新しく生れた弟や妹に嫉妬し、別れた担任教師を思慕する幼児の気持を受けとめることができず、そこでは子どもも我執の愛にとらわれたまま、ひたすら相手を非難し、互いに傷つけ合う、そんな生活が展開するのではないか。 （岩手大学）